

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という基本方針を重視して、理念を作っている。</p>	○	入居者の家族や友達の面会が増えるように呼びかけている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>「心やすらぐあったかコミュニティ」という理念の意味を、きちんと把握している。</p>	○	勤務に入る前に、各自理念を唱えている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>家族の方、入居者にも分かりやすくリビングに掲示している。</p>	○	見学者や訪問者にも説明できるよう理解している。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>建物が5階にあり、訪問者・知人が出入りにくい面があるが、散歩に行き、知り合いに会ったとき等に声をかけている。</p>	○	病院、ケアハウス等へメイプル通信を配布したり、ホームページ等でお知らせをして、地域に理解を得られるように取り組んでいる。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>地域の文化祭や祭りなどの行事に参加している。また、運営推進委員会に地域の担当者の方の出席をいただいている。</p>	○	積極的に働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者に対する取り組みは、現在できていない。	○	職員が現場で学んだ知識・技術を、地域の高齢者の暮らしに役立てるよう、話し合いを進めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に周知し、活かしている。	○	評価の意義を理解し、定期的なカンファレンス・勉強会などに参加している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に一度、実施している。	○	委員の意見・希望を聞き入れながら、認知症についての相談を受け、サービスの向上に活かしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携を重視し、情報提供や情報収集をしている。	○	少しの疑問や質問は、電話等で尋ねたり相談している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在問題になってはおらず、利用はしていない。	○	必要な人には活用できるよう、管理者や職員が学ぶ機会を持ち、対応できるような体制を整えておきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症介護実践者研修に、毎年、職員を順次、受講している。	○	勉強会を開いている。(研修を終えた者)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行っている。	○	納得いただけるまで、口頭・書面にて説明している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見が言える入居者は、職員に相談し、その意見を管理者に伝えて対応している。	○	誠意を持って、対応できている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、健康状態などを報告している。金銭面に関しては、自己管理できる入居者が少ないため、定期的に家族に連絡している。	○	健康面の異常時には、ご家族にすぐ連絡している。また、金銭面は、出納帳にサインをもらっている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、家族会を年2回開催して、意見を聴けるように(アンケート)している。	○	家族等の意見を職員に周知し、誠意を持って対応できている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のチームカンファレンスで、十分話し合いを持っている。また、全体のカンファレンスを実施して意見を出し合っている。	○	決定した意見は、管理者から施設長に報告している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要なローテーションを組んでいる。	○	常に、入居者の状況を一番に考えているが、一人の入居者に手をとられる場合があり、時にはゆとりのない場合がある。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現時点で大きな異動・離職がない。	○	他の職員に打診し、応援してもらうような体制が整っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が各自の立場に応じた研修に参加し、技術や知識を向上させるよう努力している。また、研修後に勉強会を開くようにしている。</p>	<p>○</p> <p>事業所内での研修に、さらに力を注いでいきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の他法人との交流や連携は、あまりできていない。時々、他の法人に見学に行き、勉強させていただいている。</p>	<p>○</p> <p>近くの他の法人との交流を増やし、職員同士の勉強会等もできるようにしていく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩場所は確保できている。また、数か月に一度、食事会やボーリング大会を行い、他部署との交流を図っている。</p>	<p>○</p> <p>他部署との合併の休憩所なので、もう少しゆとりある空間にする必要がある。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回、職員が自己評価を出し、運営者に伝えている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所までには、家族に職員が直接会って、今の状況を聴いている。</p>	<p>○</p> <p>連携している病院や施設などに、本人の様子等は聴いている。入所までに本人と会い、話を聴く機会をさらに設けられるようにしたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族には、本人のことで困っていることや、求めていることを十分に聴く機会を設けている。</p>	<p>○</p> <p>じっくりと時間をかけ、家族の訴えを聴いている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や今までいた施設等から話を聴いて、必要とする支援を見極めている。本人が入居された初めの時に暫定プランを立てて、2週間、十分に本人をみてから本プランを立てている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族との電話や面会、外出・外泊をしてもらい、徐々にホームに馴染めるようにしている。	○	少しずつ慣れてもらうように、家族にも協力を得ている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できることは見守り、本人が難しいところは支えながら生活している。	○	忙しい時には、職員が何でもしてしまいがちなところもある。時間をかけて見守ることを忘れずに、一緒に生活をしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の少しの変化も家族に伝えたり、今までの家での状況を聴いたりしている。	○	家族が本人に対してどういった介護をしてもらいたいのか、十分に意見を聴いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	できるだけ面会・外出・外泊の呼びかけ、本人と過ごす時間を持っていただいている。	○	家族にとって負担とならない程度に呼びかけていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にドライブに行ったり、馴染みの人に訪問してもらうように声かけをしている。	○	ドライブに行く機会を増やすとともに、馴染みの人との交流を大切にしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しないように職員が入居者間に入り、コミュニケーションをとっている。	○	孤立する入居者がいないように、席の配置を考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、相談や支援に応じる姿勢を示している。	○	生け花などのボランティアで、家族との付き合いを続けている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プランを立てるときにはセンター方式を利用し、全てのスタッフが本人本位に考えている。	○	本人の立場に立って考えられるように努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活の様子は、きちんとキーパーソンより聴き取っている。	○	生活歴や今までの暮らし方を尊重しながら、ホームでの生活に活かしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録を職員各自が確認しつつ、申し送り等もきちんとしている。	○	職員全員に、入居者の新たな情報を周知できるように、申し送り・話し合いを続けていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員、また、家族、本人ともしっかり話し合い、納得してもらえるプラン作りに努力している。	○	一つの課題に対して皆で話し合い、アイデアを出し合って、プラン作りに取り組んでいる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の現状について、よりよい方向に向かうよう入居者本位で計画を見直している。	○	変化があれば、その都度カンファレンスで話し合っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の出来事を細かく記入し、個々に気づいたことや工夫点を他の職員に伝えている。また、その記録や実践をふまえて、介護計画の見直しに活かしている。	○	職員全員が情報を共有するように、申し送りや他の職員の記録を読むことを続けていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、受診やリハビリ通院を行っている。	○	家族が来られた際に入居者の状況を伝えることで、その時の要望や希望を聞くようにしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現時点では必要性、本人の意向がないため、行っていない。	○	必要時に備えて、ネットワークを広げておくようにしたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	主に本人が他施設にいる家族への面会時に、時間調整を聴く際はケアマネジャーに相談している。他のサービス利用は、本人の意向がないため、行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点で必要性、本人の意向がないため、行っていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人や家族から診察の希望があった時は、すぐに対応し、診察してもらうようにしている。	○	本人と家族からの希望を十分把握して、適切な医療を受けられるように支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	年に数回、勉強会を開き、認知症について学んでいる。また、併設の病院により、認知症に関する診察や治療を受けられるようになっている。	○	認知症について気になることがあれば、積極的に専門者に話を聴いていきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内に看護師が一人いるため、少し気になったことや異常がある場合は相談し、健康管理に努めている。また、病院の看護師とも連携を取り、相談している。	○	積極的に協働の姿勢で、業務にあたりたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院した時は、病院の職員に入居者の情報を伝え、入居者が安心して入院生活が送れるようにしている。また、職員が面会に行き、コミュニケーションをとっている。	○	家族や本人と十分に話し合い、退院に向けて支援している。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人から聴取することが難しい場合は、家族と話し合い、これからの方針を決めている。	○	本人が望む生活が送れるように、普段の生活の中から聞いておきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者の望むことを取り入れ、日々職員間で話し合ったり、家族、医師に相談しながら、よりよく暮らせるように支援している。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えは、全ての関係者と1か月前から退居に向けたプランに沿って生活して行くため、環境の変化に対するダメージは最小限にできている。	○	住み替え後の支援は、積極的にしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を守るような対応をするように、全職員が心がけている。しかし、入居者の不穏時などは、自分本位で対応している場合がある。	○ これからも、入居者の誇りやプライバシーを守っていくために、職員の在り方について、適宜話し合いをする。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の会話やレクリエーションの中で、一人ひとりの思いや希望を取りくむようにしている。特に、日中の過ごし方や食事メニュー等は、取り入れている。	○ 個人個人の意見を大切にして、それに添えるように努力していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりが描く生活を大切にして、ケアにあたっている。	○ 様々なコミュニケーションを用いたり、表情からくみ取るなどして、本人の考えを理解するように努める。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	昔から馴染みの理容・美容室に行かれている方もいる。	○ 服装に関しても、本人が選んだ服を着たり、お店で選べるように支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の中には、職員と一緒に配膳や片づけをしている方もいる。	○ 入居者の隣で一緒に食事をとったり、会話をしたりして、食事時間が豊かになるように努めている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好みを理解し、その都度提供している。(パン・甘酒・健康食品・菓子類)	○ 入居者が好まない物が食事に出た時や食欲不振の時は、栄養不足にならないよう、補助食品や好物で補っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間ごとにトイレ誘導を行い、排泄のパターンを理解し、支援している。	○	常にトイレチェック表に記入し、排泄のパターンを知るように心がけている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望(午前中・午後)や、体調に合わせて入浴を行っている。	○	職員間で話し合い、本人に喜んでもらえる入浴支援を行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の生活習慣や性格などを理解して、就寝前は職員と会話・テレビ鑑賞等を行っている。また、必要に応じて、安眠剤を服用する方もいる。	○	入居者の不穏・不眠時は、職員で話し合い、分析して対処している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	会話やレクリエーションの中で、本人から生活歴を聴いたり、家族から本人の趣味を聴き、本人に合わせた企画作りをしている。	○	家族とのコミュニケーションを密にとり、常に近い距離を心がけている。また、家族の支援も呼びかけている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の財布(1,000円程度)を、大切に所持していただいている。	○	大きなお金の管理は預かり金として、職員が管理している。買い物に行ったときは、可能な方は自分で支払うように支援したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一週間に数日、買い物やドライブ、散歩に出かけている。	○	本人のその日の希望に沿って、外出できるように計画を立てていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段いけない場所に外出する際は、家族に話し、参加していただくように勧めている。	○	積極的に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には、家族の都合に合わせて電話をしている。また、家族・知人からの電話や手紙の支援も行っている。	○	電話や面会が定期的にあるように、呼びかけていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時にはゆっくりとしてもらえるように、入居者の居室に案内し、家族の空間が作れるように心がけている。	○	知人や友人の方に気軽に来ていただけるよう、明るい雰囲気づくりをしたり、呼びかけをしていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険と思われることに対しては、常に話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。拘束がやむを得ない場合は、家族の了承を得て行っている。	○	拘束をしないように、これからも努めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を出ると、ブザーが鳴るマットを敷いてある。外に出ると危険な方が不穏時で、職員が付き添えない状況のときに、鍵をすることがある。	○	入居者にとっては、鍵が付いているだけで不安になる方もいるため、新しく加工している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーを守りながら、巡回や付き添いを行っている。	○	トイレに入る時は、ノックや声かけをして、入らせてもらっている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤を口にする方はいないため、台所に置いてある。刃物やお金、薬は注意を要するため、入居者の目の届かないところに保管している。	○	一人ひとりの可能性(はさみで何かを切る、針を使う)を模索していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書を記入しており、予防策について、チームにて話し合いをしている。	○	月に一度の安全対策委員会により、他部署の事故報告を聞き、ホームの事故防止に活かしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師により、指導を受けている。訓練は定期的には行っていない。	○	応急手当や初期対応の訓練を、定期的に行っていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアル作成、避難訓練などを行っている。	○	地域の方々にも協力を得られるよう、連携体制を整えていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会に来られた家族と話し合い、起こり得るリスクについて説明をして、意見をいただいている。	○	問題が発生する前に家族と話し合い、コミュニケーションをとっていききたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、異変時のバイタルチェックをして、異常があれば報告している。	○	小さな変化にも気づけるように申し送り、記録を細かくするように心がけている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能書きで調べたり、薬が変わる度に、看護師から作用について指導を受けている。	○	副作用について、注意して観察していききたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員が薬を管理しており、本人の状態をみて看護師と話し合い、服薬を行っている。毎日、体操や体を動かすレクリエーションを行っている。	○	食物繊維の多い食べ物を食事に取り入れたり、体を動かす時間を欠かさずにしたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食事後は、必ず口腔ケアの誘導をしている。歯科とも連携しており、訪問受診して、清潔保持に努めている。	○	職員は本人の了承を得て、口の中を見せてもらい、きちんと汚れが落ちているかチェックする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別チェック表に記入して、状態を把握している。また、栄養バランスの悪い方は補食をしている。	○	水分量の少ない人に対して、細かなチェックをしていくように心がけたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	看護師による指導や、書面での周知をしている。手洗いをこまめにしてもらっている。また、異変に気づくと、早期受診を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の使用期限のチェック、まな板、包丁の衛生管理をしている。また、こまめな手洗いを実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関窓口に職員がいて、挨拶をしてお迎えするようにしている。職員が不在の時は、チャイムにて知らせている。	○	利用者や家族が、玄関周りについてどう感じているのか、声を聴いていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や採光などをして、快適な空間作りを意識している。また、身近な家具や季節の花を置いて、入居者がくつろげるように演出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファを活用していただいている。	○	ソファの配置を考慮したり、仲の良い同士での空間を大切にしたい配慮が必要である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して、使い慣れた家具や日用品を持ってきてもらっている。	○	家で生活されていた頃の部屋のイメージを、家族や入居者本人から聴取して、近づけるようにしたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	においが気になるときは、換気をしたり、換気扇を使用している。エアコンの使用には、温度・風量に気を付けている。	○	温度計にて、室温が何度か確かめるようにしたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴槽には手すりがあり、自立して歩行できるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	大きな掛け時計や手作りカレンダーにより、理解している。	○	何に対して混乱しているのかを考えて、本人が分かりやすいように示している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑は、花や野菜の栽培に使用している。ベランダは日当たりが良くないので、あまり活用できていない。	○	入居者にとって楽しみになるように、外周りやベランダを工夫していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

本人や家族から情報を集め、少しでも気分転換になり、和んだ表情が見られればと思って取り組んでいることは、入居者にとって馴染みのある場所へ、日中ドライブをしていることである。最近では、ドライブ先で出会った人から挨拶や優しい言葉をいただき、地域との交流が広がってきたように感じる。もう一点は、3か月に一度、うどん作りを行っていることである。うどんは入居者に昔から親しみのある食べ物であり、皆、喜んで食べている。麺、だしを一から皆で協力して作っている。まだ麺作りは努力を要するが、入居者と職員が協力して、おいしいうどんを作っていきたい。